

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	スタッフ皆で話し合って理念を決めました。その中に「地域との結びつきを大切にします」とあり、心がけています。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日常の追われている日々の中でもふと目に留まるよう、壁に掲示して立ち戻りができるよう心がけています。またケアに迷った時などは理念から外れていないか、私たちは何をすべきなのかを理念に立ち戻り考えることをカンファレンス等で意識づけを行っています。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議のレジュメの表紙に理念を掲げたり、パンフレットに掲載し、見学者やご家族の方に見て頂けるようになっています。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の皆様ともすっきりと顔なじみの関係となりお付き合いさせて頂いております。お庭のお花を見せて頂いたり、ブドウやお漬物、お庭のほおずきを頂いたりと色々とお気遣い頂き感謝しております。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会行事にもできるだけ参加させて頂きたいとは思っていますが、入居者の皆様の状態によってはいつも参加できないのが現状です。しかしその中でも景品などを届けて下さったりと、町内会会長様をはじめ、福祉部長様にはいつもお心遣いを頂いております。		今後も回覧板等の情報を大切に町内会行事に顔を出させて頂きます。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	周囲には同グループの病院、老健、特養、ケアプランセンター、訪問看護ステーション、包括支援センター等に恵まれている立地のため、なかなかこの事業所が中心となつての地域への働きかけを、という役割にはならないのが現状です。運営推進会議等でもグループホームとして町内会に貢献できる事は？と話し合いましたが、現在は特にないようです。		これで終わり、ではなく今後も町内会の中で貢献できる事を話し合っていければ、と考えています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価の意義をスタッフ全員で周知し、自分の振り返りをする事で、改善への意識付けをしています。		今後もより、スタッフ皆が自己評価、外部評価の理解を深めることができるよう、伝え、自己評価、外部評価結果からきちんと改善計画を行って、意識的に、具体的に実施していきます。
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	推進会議では行事やレク、その時にあった大きい事や事故報告など、様々な報告を行っています。毎回白熱した意見が取り交わされ、事業所に対する意見はもちろんの事、地域の現状や在宅の人々の現状まで、地域視点からの意見も多く出されており、学ぶこともしばしばです。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	札幌市管理者連絡会や南区管理者連絡会が各年3回あります。中でも区の連絡会では担当者が出席下さり、意見を取り交わす機会があります。又、時々書類申請等の時は区役所へ出向きお話をお聞きしています。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在入居者の方に該当する方がおらず、今年度は改めて勉強する機会を持っていませんでした。		研修等を設け、職員への知識を高めたいと思います。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない注意を払い、防止に努めている。	内部研修やグループ内の委員会で研修の機会を都度設けたり、カンファレンス等でお話させていただいたり、理解浸透に努めています。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご入居時にご家族のご心配や不安を考慮し、重要事項説明書を口頭でゆっくりご説明させて頂くとともにゆっくりお話できる時間を設けております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者のご意見は普段の会話や行動から真意をつかむよう努めています。また、それをカンファレンス等で話し合い暮らしに反映できるよう努めています。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	定期的なお便りでご報告するとともに、必要時にはお電話でご報告しています。またご家族の来訪時にも日々の暮らしぶりをお伝えできるようゆっくりお話できる雰囲気づくりに努めています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居契約時に苦情についての説明をさせて頂くとともに、重要事項説明書の中でも明記しております。また第三者への苦情申し立てができるようホーム内に掲示してあります。苦情が寄せられた場合は速やかにカンファレンスで発生原因を分析、検討し、サービス改善に努めさせていただきます。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	必要時は都度意見や提案を聞き入れる体制があります。又口頭でお話しづらい時でも年2回の自己申告書の中に項目があり、意見を出せる環境となっています。管理者との面接の機会があり意見を出しやすい雰囲気づくりに努めています。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の方の状況により柔軟な勤務調整を行っています。必要時はスタッフ数を増やして事故防止に努めました。(時間外にて対応)		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は必要最小限であり、大きく変わることはありません。また職員の入れ替わりがあった場合も入居者の方の混乱やダメージが少ないよう顔なじみのスタッフと必ず組む等の配慮をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修が充実しております。また外部研修の案内を掲示し、職員の希望時は受ける機会を確保できる環境です。研修の資料はスタッフ皆が閲覧できるようスタッフルーム内に一定期間置き、知識の共有を図っています。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同グループ内だけでも16ユニットのグループホームがあり、相互の交流のため、職員による委員会活動や定期的な管理者連絡会がありサービスの質の向上に努めています。また地域の管理者連絡会が年3回あり、意見交換等を行っております。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	面接時や個々に応じて話す機会を設けています。又、休みや年休は勤務に差し支わらない程度に出来る限り希望に応じています。年数回親睦会を設け、ストレス解消に努めております。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	年2回人事考課を行い、またエリアマネジャーが定期的に来訪され、職員の状態把握に努めて下さっています。それぞれに応じた係や委員会を持ち、向上心が維持できるよう努めています。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初めに築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。	見学にいらしたときには、ご本人からのお話を意識的にお聞きしたり、ご家族を通じて状態を把握できるよう努めております。ご入居後も感じていらっしゃる不安や心配な事をお聞きすることに意識し、時間をゆっくり確保しております。		
24 初めに築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。	ご家族とのおはなしする時間もゆっくりと設け、出来る限りご心配やご不安な事をお聞きしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学にいらした時等、差さわりがない程度にお話しをお聞かせ頂き、必要な情報提供をさせて頂いています。ご希望があれば同グループ内の紹介をさせて頂いています。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にご本人とお会いする機会を設け、入居される時にすこしでも安心いただけるよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に家事を行ったり、時間を過ごすことで、その方の得意としている事やお好きな事を教えていただいたり昔のお話をお聞きしたりすることがたくさんあります。又、職員皆それぞれ入居者の方に助けられることもしばしばです。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の方の状況を細かくお伝えするとともに、一方的にお伝えするだけでなく一緒に悩んだり考えたりすることも大切にしております。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族の方の思いや苦しみ、そしてその事実を受け入れるまでの葛藤など、その時その時のご家族様の思いを受け止め、すこしでもお力になれば、と考えております。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族をはじめ身近なお友達等がいつでも気軽に来訪できる環境づくりに努めています。しかしご入居されている方の多くは以前の生活していた場所から離れており、出来る限り継続した生活を、と考えては入居と同時に新たな暮らしとなっているのが現状です。		継続した暮らしを支えるために私たちに何ができるのかをご家族にご理解、ご協力を頂きながら、改めて考えて取り組んでいきたいと思っております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者の皆様のそれぞれの相性を考慮しつつ関わられるよう配慮しております。今では、入居者の方同士の支え合いが自発的に行われており、感動する場面も多くみられています。また、普段は仲が良くても感情の起伏が激しくトラブルになりそうな時には、さりげなくスタッフが間に入って場を取り持ったり、さりげなくその時は距離を置いて頂いたり、見守りを注意深く行っております。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居先へ面会に行かせて頂いたり、ご家族の方とお会いした時はご本人の近況をお聞かせ頂いたり、より良い関係を継続できるよう心がけています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中からご本人の思いや気持ちを言葉や行動、表情に意識を向けています。カンファレンス等でその方の思いに出来る限り沿えるよう、話し合い、実現に向けて工夫、検討をしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族のお話をお聞きして、情報の把握に努めています。また一度ですべてを聞き出すのではなく、少しずつ信頼関係を築いていく中で、継続してお話をお伺いしています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一緒に寄り添って様々な事をしていく中で心身の状態の把握を行い、記録、申し送りを行ってスタッフ皆が情報を共有できるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族のご希望を都度伺いながら、カンファレンスでスタッフ皆と話し合っご本人の視点を大切にすることを心がけながら介護支援専門員とともに介護計画を作成しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入退院や心身の状態が著しく変わった時等は主治医の意見、指示等も伺い、速やかにカンファレンスを開催し、話し合いのもと新たな計画を作成、または追加変更を行っています。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	介護計画に沿った記録をするとともに気づきを申し送りです等、個別に日々の様子やケアの結果等を記入し、また、月1回のケアカンファレンス等で情報を共有し、介護計画の見直しにつながるよう努めています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	緊急の受診等がありご家族が対応できない場合等は法人の車両を手配し、迅速に対応しています。また、個別の買い物や受診同行もしています。必要時はご家族お泊り頂いたりすることができます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	福祉部長、民生委員との関わりの中で硬石山福祉会館を利用したり、定期的にボランティアの方が来訪下さり、入居者の皆様を楽しませて下さっています。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	札幌市の行うオムツサービス等の情報提供等ご家族に行い、利用して頂いたり、必要な情報提供を行う様努めております。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通じて、包括支援センター職員の方と顔なじみとなっており、情報交換等行うことができます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問診療、訪問看護ステーションによる定期的な健康相談があり、気兼ねなく相談できる体制となっています。必要時には24時間の電話対応をして頂いているので、すぐに相談することができます。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要な方には専門病院へ受診を行い、かかりつけ医とも連携を図りながら支援させて頂いています。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問診療、訪問看護ステーションによる定期的な健康相談があり、気兼ねなく相談できる体制となっています。必要時には24時間の電話対応をして頂いているので、すぐに相談することができます。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にはご家族と一緒に病院へ同行し、情報提供書の他、口頭でご本人のご状況をお伝えしています。先生からお話があるときにはご家族と一緒に管理者も同席させて頂き、状況の把握に努めています。急性期治療を必要とせずホームでのリハビリが有効と判断した場合は積極的に早期の退院を提案させて頂いています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族の意向をお聞きしながら、かかりつけ医や協力病院と連携を図り、必要時には都度話し合いをさせていただき重度化になった場合にどうなるのか、方針を共有できるよう努めています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度の入居者の方にもよりよい暮らしを送って頂けるよう、かかりつけ医と相談をし、ご家族に協力を頂きながら、食事の見直しや寝具等の検討、そして出来る限り残存機能を維持し、今現在の生活を少しでも長く送って頂けるよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	移り住む際は情報提供を事前に行い、必要があれば電話連絡等、口頭での情報交換ができるよう努めております。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取扱いをしていない。	お手洗いに誘う時等はプライバシーに配慮しながら、ほかの人に気づかれないようさりげなく声かけをさせて頂いたり、失行があり衣類が上手に着ることが出来ない方などには誇りを損ねることのないよう声かけに工夫をしたり、と尊厳が保たれるよう努めています。個人情報、守秘義務についてスタッフ皆が理解浸透するよう都度話す機会を設けています。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	すべてを職員側から一方的に決めて提供するのではなく、複数の選択肢を用意して好みのものを選んでいただくような機会を意識的に行っていきます。(例えば、服やジュース、レク等)		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の方のご希望に沿えるよう努めています。なかなか自分の思いを伝えることが出来ない方などは、夜間の過ごし方等を考慮しつつ表情、身体状況を注意深く観察して今、どういう思いでいるのか、何をしたいのか、を出来る限り把握できるように努め、その思いに沿えるよう努めています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	現在は移動美容室を利用しておりますが、生活歴や好みを考慮して、カットだけの人や、パーマをかける方、色を染める方など様々です。朝の着替えや入浴時の着替えの服等もご本人の意思や好みを尊重しお決め頂いております。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	毎食、野菜切りなどの下ごしらえから調理、盛り付け、後片付けまで、それぞれの力量や得意な事に合わせて一緒に行っています。一緒に行くことで、よく昔食べたものやその食べ物や野菜にちなんだお話などもよく話していただき楽しみの一つとなっているようです。重度の方で全く台所に立てない方でも野菜を刻む音やおいなどを感じて頂ける対面キッチン作りとなっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在お酒やたばこを嗜む方はいらっしゃいません。しかし、お正月やクリスマスなどの行事の時にはアルコール等をご用意させて頂いたり、毎朝の牛乳が嫌いな方はコーヒー牛乳にて対応させて頂いています。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	ひとりひとりの尿・便意のサインを把握し、出来る限りトイレで排泄し不快な時間が極力少なくなるようスタッフ一丸となり努めています。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	現在はご自分からご希望される方が少なく、こちらからの声かけで入られる方がほとんどですが、入浴日は大きな行事や特別なことがない限り毎日設けています。また、入浴が難しい方に対しては、一番穏やかな時間に声かけをしたり、足浴から徐々に慣れて頂いてから湯船にお誘いする等、気持ちよく入って頂けるよう、工夫を繰り返しています。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動や排泄パターンを重視して、生活のリズムが整い、薬に頼ることなくぐっすりと休めるよう努めています。しかし、排泄リズムの不調や、身体の不調から夜間の安眠が得られない場合、また外出などで疲れている時等は行動や表情を密に観察しご本人のニーズを捉え、しっかりと休息がとれるよう、配慮しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	お一人お一人の好きなこと、お得意な事を継続して楽しんで頂けるようそれぞれの余暇活動を支援させて頂いています。(書、民謡、裁縫、刺し子、家事、歌、お話、スキンシップ等)それが出来ることでもご本人の満足につながらないことは極力避け、行っている時も楽しまれているか、疲れて来ていないか等考慮しています。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご希望される方はご家族のご理解を頂き、ご自分でお金を所持されています。買い物に行かれた時にお好きなものを買われることがあり、つつがなくレジでの精算ができるよう、見守り、必要時はさりげなく支援することもあります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や、ドライブ、花の手入れや畑の手入れ、お買い物など日常的に外へ出られるよう心がけています。しかしこの1年は全体的な重度化の現状があり、常時見守りが必要な方の事故防止に努めながら外出の機会をできる限り作っています。		今後も全体的な重度化は避けられない中で、「できない」ではなく、どうしても限られた人数の中で安全に外出する機会を持てるかを、今後も検討を重ね、入居者の皆様が気軽に外へ行けるよう努めていきたいと思ひます。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	グループ内の他ユニットと連携、協同し、夏の豊平川花火大会や芸術の森、いちご狩り、イルミネーションなど季節に合わせて出かける機会を設けています。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご兄弟やお友達などからお電話があった時は気兼ねなくお話できるようにさせて頂いています。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも御来訪して頂くことができ、来訪時は自室で過ごしていただいたり、リビングでティータイムを楽しんで頂いたり、ゆったりと過ごしていただけるよう配慮しています。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	カンファレンス時、及び日々のケアの中でスタッフ皆が身体拘束の禁止となる対象の具体的な行為を伝達し理解を深めることに努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。また、内部研修でも意識付けをしています。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	現在は入居者の方に対し外部からの危険を事前に防ぐため、時間を限定し、玄関に施錠をさせて頂いています。しかし、入居者の方が外へ出ることを希望された時には鍵を開け閉塞感を感じさせないよう対応をしています。		入居者の方々にストレスをかけないよう、限定時間を少しづつ検討していきたいと思ひます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常にリビングにスタッフが一緒に過ごしておりさりげなく様子を観察しております。また、お部屋で過ごしていらっしゃる時や夜間等は定期的な巡回を行い、安全確認を行っています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬や包丁、塩素系漂白剤等、命の危険に直結するものはまとめて鍵のかかるところに保管しています。花瓶やソファ、部屋内のテレビや小物など生活を潤すもの、もしくは馴染みの家具調度品となっているものは、すぐになくすのではなく、どうして危険なのか、その前に防ぐケアや工夫は出来ないかをまず話し合い、対応しています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	内部研修の充実をグループ全体で図っており、知識の向上に努めています。またヒヤリハットがあった場合は原因を考え事故につながらないようにスタッフ皆に注意喚起を行って事故防止に努めています。		
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	内部研修で救急対応を学ぶ機会を設けています。またカンファレンスや日々のケアの中で急変時や事故発生時にどうしたら良いのかマニュアルを再確認する機会を作っています。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を行い、本部の防災担当課長より避難方法や有事の時の対応の勉強をしています。また、町内会の方も参加して頂き、意見を頂いたり、隣近所の方との日ごろのコミュニケーションを大切にして協力をお願いしております。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族には現状を報告させて頂く際、併せ持つリスクについてもお話させて頂き、ご理解を頂いています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		訪問歯科を検討していきたいです。
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材は使いきるようにしたり、こまめに調理器具を食器洗浄機で高温殺菌を行ったりアルコール消毒、塩素消毒を行っています。ふきんは一度使用したものは消毒しています。常に注意喚起を行い、「つけない、増やさない、殺す」を実践しています。衛生マニュアルに沿ってチェック表で確認して行っています。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関まわりや玄関には季節の花々を飾り温かな雰囲気づくりをしています。外にはベンチを置き、入居者の方だけではなくご近所の方が気軽に座っておしゃべりできるようにしています。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>建物内は白熱灯で間接照明なので温かな優しい光となっています。また季節に応じた花々を飾ったり、お正月にはお供え餅や勾玉、夏は壁にすだれをかけたりと、季節感を感じていただけるよう工夫しています。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビング内にはソファを置き、気の合う方が自然に集えるような環境になっています。また、2階ロビーにも椅子を置いてあるので、夜お部屋へ戻る前にそこでお話を楽しんだり、本棚を設置させていただいているので、気兼ねなくゆっくり座りながら本を選んでいる姿もよくお見かけします。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>仏壇やテレビ、ソファなどご家族のご理解とご協力を頂きながら、馴染みの家具をお持ち頂いています。またそれが難しい方でも写真を飾ったり、作った作品を飾ったり、気に入ったものを飾って頂いたり植物を置いたり、と少しでも居心地の良いお部屋づくりに努めています。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>パットやオムツの後始末の際は臭いが最小限になるよう工夫して破棄することで不快な匂いは減少されました。換気はこまめに行い、冬季など乾燥が強い時は加湿器を設置したりすることで、空調調節を行っています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

サービスの実績に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>ご利用者の方の表情、行動、言葉やご家族の方のお話から思いや願いをくみ取るよう努め、出来る限りお気持ちにそえるよう努めています。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>一緒にお食事を作ったり、レクを行ったり、お茶を飲んだり毎日一緒に楽しく過ごしています。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>重度の方は、体調や表情を考慮してお休み頂いたりこちらから働きかけていますが、ほとんどの皆様がお好きな時にお部屋へ行かれたり、お昼寝したり、お一人お一人のペースを大切にしています。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>出来る限り行動障害が少なくなり、その人らしい暮らしが送れるようにとスタッフ皆が統一した意識を持ち、時に混乱される方に対しても家事や気分転換にお誘いすることで、不快な気持ちをすこしでも少なくできるよう努めています。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>毎月外食やお出かけを行っています。しかし日常なお散歩やお出かけなどは重度化に伴い以前よりも少なくなっているのが現状です。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>医療スタッフとの密な連携がとれる体制です。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>出来る限り柔軟に対応させて頂き、ご要望に添えるよう努めています。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p> <p>何かあった時にはお電話ですぐにご報告させて頂いたり、来訪時にはゆっくりとお話ができる雰囲気づくりに努めています。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>長年通って下さっている顔なじみのボランティアさんがいらっしゃいます。</p>

サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	福祉部長様のお力添えもあり、ホームの様子などを町内の方にお話しいただいているそうです。
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	頭を悩ます日々もありますが、スタッフの向上心や気持ちには強いものがあり入居者の皆様が安心して充実した暮らしを送れるよう、日々奮闘しています。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	入居者の方々の姿を見ていつも励まされています。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	ご家族の皆様のお言葉からも励まされることが多くあります。今後も皆様に安心して頂けるよう努めてまいります。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

いつもリビングに入居者の方が集い、気の合う方同士でマイペースに過ごされ、明るい雰囲気には満ちています。ご自分の得意なこと、お好きだったことを出来る限り継続できるよう努めており、入居者の方々が自発的に台所に立つことのできる環境です。
高齢になっても、認知症になっても出来ることはたくさんあります。そのお力を発揮できるホームです。